

《マレーシア》首相府付「業績管理担当相」人事の背景 「常に実績を出す男」イドリス前マレーシア航空CEO

マレーシアのナジブ・ラザク首相は4月の就任以来、連邦政府の政策遂行の効率化を図り達成度を国民に示すために「主要業績指標(KPI)」と「重点分野(KRA)」を設定した業績管理システムの導入を進めてきた。ただ、首相は、その進展が緩慢なことに業を煮やしたのか、8月末には実質的な「業績管理担当相」として前マレーシア航空(MAS)最高経営責任者(CEO)のイドリス・ジャラ氏を首相府相に任命した。

ナジブ首相は8月27日付けの声明で、MASのCEO兼代表取締役(MD)だったイドリス・ジャラ氏を首相府相(無任所)に任命したことを発表した。形式的には無任所だが、常勤のポストは「国家主要業績指標(N-KPI)」イニシアティブ(注1)を監督する「国家業績管理・達成本部(Pemandu)」の本部長(CEO)兼副議長である。MASのCEO/MDは28日付けで辞任した(注2)。

同人事発令に伴って、イドリス氏は9月1日、閣僚就任資格を得るために上院議員に任命(注3)され、2日にミザン・ザイナル・アビディン国王による閣僚就任宣誓式を経て正式に首相府相に就任した。

ナジブ首相の期待担う

首相府では、コー・トゥクン首相府相(国民統合・業績管理担当)がPemandu理事会の議長を務めている。ナジブ首相は、コー首相府相とイドリス新首相府相の役割分担を次のように説明した。

*コー首相府相：引き続きPemandu議長の立場で「国家重点分野(N-KRA)」に焦点を当てた業績管理と機構改革に関する総括的政策の立案と施行を担当する。

*イドリス首相府相：Pemandu副議長としてコー首相府相を補佐・支援する。それに並行して、特定のN-KRAおよびN-KPIに責任を担い、「省別重点分野(M-KRA)」と「省別主要業績指標(M-KPI)」に関してアドバイスする。

首相は、イドリス氏が財政破綻寸前だったMASのCEOに2005年に就任して

以降、KPIを駆使して同社を救済した手腕を高く評価しており、同氏に対しては「(経験を生かして)連邦政府内での業績管理の施行促進に辣腕を振るってほしい」とエールを送っている。

業績管理本部のテコ入れ

ナジブ首相によると、イドリス氏は、KPIなどに関連する業務ではコー首相府相に報告を入れる立場にあるが、他の特命任務については閣僚として直接首相に報告することができる。

首相のこうした説明には、Pemandu本部長としての同氏に同本部運営の実権を与えるとともに、KRAの弱点分野に対して「首相特命補佐官」のような自由な立場でテコ入れさせたい、との考えもみとれる。

同時に、首相には、同氏の閣僚任命で政府業務の実際的な効率性向上を図るとともに、汚職の蔓延や透明性の欠如で国民の信頼が揺らいでいる政府全体のイメージを改善したいとの思惑もあるだろう。

ただ、地元の政界通の間では、イドリス氏を正大臣に任命しながら、実際的には同氏をコー首相府相所管下の「KPI・KRA担当“副”大臣」のような立場に置いたナジブ首相の人事には首相府の組織運営上からも問題点が多い、との指摘が出ている。

実情は、コー氏の業績管理担当者としての動きの鈍さに首相が業を煮やしたことがいささか唐突な同人事の発令につながったといえそうだが、一方で、首相がコー氏の面子も立てようとしたためにかえって複雑な人事配置に

せざるをえなかった、というところだろう。「首相府の管理」が先決との皮肉も地元メディアの一部から聞こえてくる。

(注1) KPI と KRA

マレーシア連邦政府の政策実現努力とその成果を客観的に分析し、同時にそれを国民に示すための各分野における達成目標・評価の指標が「主要業績指標(KPI)」であり、その導入に先立って設定されたのが「重点分野(KRA)」である。KRAには、①犯罪防止②汚職撲滅③低負担・高品質の教育提供④低所得層の生活レベル向上⑤地方インフラの整備⑥公共交通機関の充実の6分野がある。

[人物データ・ファイル]

■首相府相(無任所)

Minister in the PM's Department
(without Portfolio)

イドリス・ジャラ(上院議員)

Sen Datuk Seri Idris Jala



8月27日付けの首相声明で現職に任命された。無任所ではあるが、実質的には「主要業績指標(KPI)・重点分野(KRA)推進担当相」のようなポストである。4月成立のナジブ政権が新設した国家業績管理・達成本部(Pemandu)で本部長(CEO)兼副議長を務める。

※23年間にわたって石油大手シェル

傘下のマレーシア国内および海外の数社で代表取締役を含む要職を歴任。担当した分野は人事管理、業務改革、小売事業など多岐におよび、そのほとんどで顕著な実績を残したことで知られる。2005年にマレーシア政府当局からマレーシア航空(MAS)のCEO/MDに抜擢された時は、(航空業界はもとより経済界でも比較的目立たない存在だっただけに)関係者からは驚きをもって迎えられた。しかし、CEO就任直後から、過去何年間も深刻な赤字経営が続いてきたMASで、大胆な経費削減、資産売却、人員整理を断行。一方で、運航手順の合理化や利益の上がるルートへの資源集中などを行い、2007年に入って同社を黒字経営に転換させた。このように「常に実績を出す男」との評価に、KPI・KRA導入による効率的な経済発展と社会改革を推進したいナジブ首相が(同氏の)入閣を強く要望した。

▼データ：【年齢】51歳(1958年8月21日生まれ)【生地】サラワク州バリオ(Bario)【人種】クラビット族(サラワク州の先住民族)【宗教】キリスト教

【学歴】1982：マレーシア理科大学(USM)卒(開発学・経営学)。86：(英コベントリー市)ウォリック大学・修士号(人事管理)

【経歴】1982：サラワク・シェル社入社(人事管理担当)、修士号取得のための研究休暇。87：同社人材開発課長。89：シェル・インターナショナル社(オランダ)人材開発アドバイザー。93：サラワク・シェル社人的資源開発部長。95：シェル・マレーシア社業務改革部長。97：同社小売営業部長。98：シェル・スリランカ社代表取締役会長。2000：シェル・インターナショナル社(英ロンドン)小売市場開発部長。02：シェルMDS(マレーシア)代表取締役、シェル・マレーシア(ガス&パワー)副社長。05：[12月]マレーシア航空(MAS)最高経営責任者(CEO)兼代表取締役。09：[8月27日]首相府相(無任所)に任命(人事発令)。[9月1日]上院議員。[9月2日]閣僚就任宣誓式(首相府相に正式就任)。【歴任】国際航空運送協会(IATA)理事。2007：マレーシア工科大学(UTM)客員教授。【家族】既婚。

子供2人。

【横顔】氏名からはマレー人イスラム教徒のようだが、実はキリスト教徒。サラワク、サバ両州の先住民族ではイスラム教徒のようなマレー語名を持つキリスト教徒は決して珍しくはない。

*MASのCEO/MDへの就任は、非マレー人・非イスラム教徒がマレーシアの政府系企業(GLC)を率いた史上初のケースとなった。

■首相府相(国民統合・業績管理担当)

Minister in the PM's Department
(Unity & Performance)

コー・ツクン(博士・上院議員)
〔許子根〕

Sen Tan Sri Dr Koh Tsu Koon



与党連合「国民戦線(BN)」の一翼を担う(ペナン州を地盤にする華人系の小政党)マレーシア人民運動党(Gerakan：下院2議席)の総裁。4月に成立したナジブ政権で現職に就任。8月末にイドリス・ジャラ氏が実質的な「業績管理担当相」のような立場で入閣したことには、同分野が担務の一環であるはずの同(コー)氏としては複雑な心境かもしれない(地元政界通)。本人は、この人事に関して「自らが4月以来取り組んできたKPIイニシアティブ施行の持続であり拡張でもある」とコメントしている。

※米プリンストン大学で博士号を取得した俊英で、大学講師、連邦下院議員を経て41歳で第3代ペナン州首席相に就任し18年間務めた。2008年3月の総選挙でほぼ20年ぶりに国政(下院議員)への転換を図ったが、出馬した同州の選挙区で野党・民主行動党(DAP)の対立候補に敗れた。

▼データ：【政党】マレーシア人民運動党(Gerakan)：総裁【年齢】60歳(1949年8月26日生まれ)【生地】ペナン【宗教】仏教

【学歴】1970：(米ニュージャージー州)プリンストン大学卒(物理学)。73：(米)シカゴ大学・教育学修士号。77：

同大学・博士号(経済学・教育社会学)。81：フルブライト・フェロー(スタンフォード大学/ハワイ大学イースト・ウェスト・センター)。

【経歴】1975：マレーシア理科大学(USM)経済学部講師。78：同学部副部長。82：退職、下院議員に初当選。86：総選挙で落選、(リム・チョンユー：Tun Dr Lim Chong Eu)ペナン州首席相政務秘書官。90：ペナン州議会議員(以後、4期連続当選)、ペナン州首席相(-2008)。08：[3月下院選挙]落選。09：[4月9日]上院議員(任命)、[10日]現職【党務】1983：Gerakan青年部長。91：総裁補。2005：副総裁。07：[4月]総裁代行、のち総裁(-現在)【歴任】マレーシア青年仏教徒協会顧問【家族】チュイ・カーペン(Puan Sri Chui Kah Peng)夫人との間に1男1女。

【横顔】父はコー・ペンティン元ペナン州中華総商會会頭。

(注2) MASの新CEO

8月28日にイドリス氏(現首相府相)がマレーシア航空(MAS)のCEO/MDを辞任したことに伴い、同日中にその後任としてアズミル・ザフルディン(Tengku Datuk Azmil Zahrudin)前MAS最高財務責任者(CFO)兼専務取締役(ED)の昇格人事が発表された。

アズミル氏は英ケンブリッジ大学卒(経済学：首席)。英国とマレーシアの勅許会計士資格を保持。2004年8月にMAS取締役会入りし、05年8月にEDに就任。06年1月からFAO・EDを務めてきた。

(注3) 新上院議員

9月1日には、イドリス氏とともに華人系与党「マレーシア華人協会(MCA)」のリー・チェムチュン(Lee Cheam Choon)書記長(55)も上院議員に任命された。リー氏の場合は、議員任期が満了したスン・ティアンス(Soon Tian Szu)MCA中央委員と交替する格好になった。

(アジア・リンケージ 勝田 悟)

《東南アジア》 8月中の犯罪・治安関連事案から ラマダン中とその直後は要警戒

《インドネシア》 警察官を騙る強盗団が 携帯電話販売店主を襲撃

インドネシアのイスラム教徒がラマダン(断食月)に入った8月22日、中央ジャカルタのショッピングセンター「ITCロキシーマス(Roxy Mas)」周辺で、同センター内にある携帯電話販売店のインドネシア人店主(43歳)が、警察官を騙る4人組の強盗団に襲われた。

ジャカルタ首都圏警察のクリスナンダ報道官が23日に発表したところによると、被害者の店主は同夜、店を閉めた後に同センターの駐車場に停めてあった自分の車に向かって歩いていたら、物陰から出てきた3人組に襲われて激しく殴られた。

店主は意識が朦朧とする中、強盗団の別の1人が運転するトヨタ製ミニバン(キジャン)に乗せられ、一味にそのまま市街地に連れ出された。バンの中で、一味は「私服の警察官だ」と名乗り、店主には違法な商品を販売している疑いがかけられているので、容疑を晴らすために所持品を全て見せるよう要求した。

店主は、その時点では4人が本物の警察官だと思い込んでいたこともあり、言われたとおりに携帯電話31台、金27gを使用した宝飾品1個、それに財布内にあった現金1,300万ルピア(1,300ドル)を取り出して見せた。

その直後、一味は、チカンベック高速道路上を走行中していたバンを突然停車させ、店主だけを降ろして逃走した。

同報道官によると、首都圏警察の刑事部は捜査員多数を動員して強盗団の行方を追っている。

【視点・対策】ラマダン中は要警戒

*インドネシアに限らず、イスラム国ではラマダン期間中とその直前・直後に強盗が増加する傾向があるので、外国人であっても街頭犯罪や空き巣、押込み強盗に警戒する必要がある。また、使用人とも良好な関係を保ち、彼らが犯罪を手引きしないよう用心すべきである。

*ラマダン期間には、イスラム教徒が日中は飲食をしないため、日中にレストランにいるのは、店員以外は異教徒と「不信心者のイスラム教徒」だけとなる。そこにテロ攻撃を加えれば、「敬虔なイスラム教徒」の巻添えを最小限にして異教徒を殺傷できる訳であり、イスラム教徒がそうした狙いでテロを画策する可能性がある。ラマダン期間は日中に外国人の集まるレストラン等に近づかない方が無難である。

*夜間も、イスラム急進派がナイトクラブ、ディスコ、バーなどの娯楽施設を襲撃して店舗を打ち壊すなど暴れ回ることがあるので、そうした場所にも行かない方がよい。

《インドネシア》 首都圏で7カ月間に 29件の銃器使用強盗

ジャカルタ首都圏警察が8月中旬に発表した統計によると、ジャカルタ大都市圏(ジャカルタ首都特別州、ボゴール、タンゲラン、プカシなど)において、銃器を使用した武装強盗が今年1月1日から7月31日までの期間に少なくとも29件発生し、年々の増加傾向に歯止めがかからなくなっている。

29件の中でも、ジャカルタ市民を特に驚かせたのは、7月13日夜にスカルノ・ハッタ国際空港に通じる高速道路上で発生した現金輸送車強盗事件である。

同事件では、輸送車を警護していた警察官・警備員らが拳銃を所持した7人組の強盗団に制圧され、インドネシア国家銀行(BNI：中銀)の同空港支店などから運搬していた現金150億ルピア(約1億4,000万円)を輸送車ごと強奪された。

これら銃器使用の強盗事件に関して、首都圏警察で暴力犯罪を担当する某刑事は、凶器の大半が市販の銃をコピーした密造銃であることを明らかにした。

同刑事によると、犯罪者が密造銃を使用するのは、銃器の闇市場での値段が安いことが第一の理由である。

例えば、米国製のスミス&ウェッソン(S&W)リボルバーは、インドネシアの闇市場では1,000ドル近くするが、それをコピーした密造銃は100ドルほどで購入できる。密造銃にはシリアルナンバーが刻印されていないため、簡単に見分けがつくという。

また、それらの密造銃の多くが「銃器造りの村」として知られる西ジャワ州バンドンの近郊にあるチパチン(Cipacing)村で密造されている。警察はこれまでに同村を数回にわたって摘発し、多数の密造銃を押収してきたが、銃器造りの職人達はほとぼりが冷めると密造を再開するため、密造銃の流通は一向に減少する様子を見せていない。

【視点・対策】邦人の被害例も

*犯罪に使用される密造銃は、表面仕上げが粗いなど全体的に造りが雑であり、命中精度もかなり低い。しかし、強盗などの犯罪者にとって、銃は相手に見せて脅すためのものであり、命中精度などは必要ない。

*2003年8月には、ゴルフ帰りの在留邦人社長が午後7時頃に西ジャワ州の高速道路上で4人組の拳銃強盗に襲われ、現金30万円相当と車などを強奪される事件が発生した。ゴルフなどで郊外へ行く際は暗くならないうちに帰宅するなどの注意が必要である。

*首都圏警察のクリスナンダ・ドゥウィ・ラクサナ報道官(警察大佐：Sr. Comr. Chrisnanda Dwi Laksana)は、民間人の銃器所持を非合法化する政策の可能性に関して、毎年銃器ライセンス料は非租税国庫収入の一部を占めているため、警察にとってもそうした政策を実施するにはジレンマがあることを示唆している。

《フィリピン》 南コタバト州で 韓国人ビジネスマン誘拐未遂事件

8月22日午前、ソクサージェン地方南コタバト州サントニーニョ(Santo Nino)町の市街地で、5人組の武装集団が韓国人

パームオイル貿易業者3人の誘拐を企てたが、救出に駆けつけた警官隊が犯行を阻止するとともに、銃撃戦で同集団の2人を射殺した。

ロバート・キウニサラ同州警察本部長(Snr. Supt. Robert Kiunisala)によると、武装集団は、韓国人3人が宿泊していた同町内の格安ホテル「シグネチャー・プレイス(Signature Place)」に侵入し、従業員を銃で脅して、ホテル内で韓国人の居場所を探した。しかし、同ホテルから脱出した警備員が警察に事件を通報し、それが犯行阻止に繋がった。

同集団の残る3人は逃走しており、同州を管轄する陸軍第6歩兵師団が最近新設した対テロ・誘拐部隊「12アルファ特殊部隊(Task Force 12-Alpha)」を投入して警察の捜索活動を支援している。

同師団のジョナサン・ポンセ報道官(大佐: Col. Jonathan Ponce)は、「武装集団の正体は不明だが、彼らが韓国人を誘拐しようとしていたことは間違いない」と語った。

【視点・背景】「アブサヤフ」と犯罪組織
*ソクサージェン地方などがあるミンダナオ島の周辺では、イスラム過激派「アブサヤフ(ASG)」が活動資金を調達するために身代金誘拐を頻発させているほか、誘拐専門の犯罪組織も暗躍している。ASGのメンバーやシンパが活動しているミンダナオ島南西部、バシラン州、スルー州、タウィタウィ州などでは特に警戒が必要である。

《マレーシア》 未明の娯楽施設急襲で 麻薬使用者111人を逮捕

クアラランプール市警察は8月16日、麻薬密売・使用の「巣窟」との疑いがある市内の娯楽施設2カ所を急襲・捜索し、現場にいた客などに簡易式の麻薬検査を実施して、陽性反応を示した国軍兵士3人と女30人を含む計111人を麻薬取締法違反容疑で逮捕した。

警察はまず、同日午前2時30分頃に同市内アンパン通り(Jalan Ampang)沿いのカラオケ・センターを急襲し、麻薬検査の結果、兵士3人を含む男5人、女1人(いずれも20~30代)の計6人が麻薬使用者であることを確認後、逮捕した。

さらに、警察は同日午前4時30分頃に同市内バンダル・スリダマンサラ(Bandar

Sri Damansara)地区にある別の大規模な娯楽施設を急襲し、麻薬検査で陽性反応を示した客ら男76人、女29人の計105人(20歳~62歳)を同じく麻薬取締法違反容疑で逮捕した。

【視点・対策】麻薬犯罪には重罰

*マレーシアでは麻薬犯罪に重罰を科しており、最高刑は死刑であるほか、少量の使用でも長期の禁錮刑が科せられる。日本の某タレントのように、摘発されてから「知人にもらった。違法な物とは知らなかった」では済まされない。

*外国人でも同様なので、麻薬はもちろんのこと、「合法」との触れ込みでも得体の知れない薬物に手を出すべきでないし、そうしたものが流通している怪しげなナイトスポットにも近づかない方が無難である。

《ブルネイ》 警察が最近の犯罪発生状況を発表

王立ブルネイ警察(RBPF)は同国内における犯罪発生状況に関して定期的な広報活動を行っており、8月24日には同16日~22日の1週間に発生した犯罪に関する統計を発表した。その概要は次のとおりである。

①主要な罪種の中で最も発生数が多かったのは窃盗で41件に上った。被害に遭った品目は、三菱製RV車「パジェロ」1台、フォード製RV車「エスケープ」1台、バイク2台、ピアノ1台、発電機1台、洗濯機1台、ノートパソコン3台、携帯電話9台、デジタルカメラ1台、それに各種の宝飾品、腕時計、携帯音楽プレーヤーなどとなっている。現金は総額で5万3,350ブルネイ・ドル(350万円)が盗まれた。被害品目の中で特異なものは、923ブルネイ・ドル(約6万円)相当の電線、マレーシア旅券2冊、ブルネイIDカード(住民登録証)1枚などである。

②他の罪種では、暴行傷害5件、乱闘4件、詐欺7件、出入国管理法違反7件、爆発物・武器の違法所持1件、薬物乱用8件、携帯電話の簡易メール(SMS)を使った迷惑行為1件、不法侵入2件、違法賭博2件などがあつた。

違法賭博では、ガドン(Gadong)地区で外国人8人、リンバ(Rimba)住宅地域内でブルネイ人8人がそれぞれ容疑者として逮捕された。

③さらに刑事事件ではないものの、警察

が通報を受けて対応した事案では、自然災害1件、犬の噛み付き1件、従業員の捜索7件、メイドの捜索1件、女装1件などが記録された。

【視点・対策】貴重品の管理に注意

*ブルネイは東南アジア地域でも治安が良い国のひとつであるが、上述した事例のように窃盗などの犯罪が全くない訳ではないので、貴重品などの管理を怠らないようにする必要がある。

《タイ》 最南部のテロ犠牲者(民間人)数は3,000人以上

タイ国家警察庁「国境警備警察作戦センター」のピーラ・プムピチェート・センター長(警察少将: Pol Maj Gen Peera Phumphichet)が8月8日に発表した統計によると、同国の最南部(パッタニー、ヤラー、ナラティワート3県とソクラー県の一部)で2004年1月1日から2009年7月31日までの期間に発生したテロ事件によって、一般市民3,131人が死亡、4,414人が負傷した。また、この死傷者数とは別に教師94人が死亡、98人が負傷したほか、仏教僧侶7人が死亡、15人が負傷した。

同期間に発生した未遂を含むテロ事件は9,847件で、その内訳は、銃撃・狙撃が5,162件、爆弾テロが1,612件、焼き討ち・放火が1,403件、その他が1,670件だった。

また、これらのテロ事件に関連して7,001通の逮捕状が出され、これまでのところ延べ4,076人の容疑者が逮捕された。

【視点・背景】治安機関要員多数も死傷
*これらの統計は一般市民の死者・負傷者に関するもので、国軍兵士や警察官などの死者・負傷者は含まれていない。これら国防・治安機関要員、および治安当局が殺害したイスラム過激派メンバーなども含めると、同期間に発生したテロ事件関連の死者数は4,000人近くに達するとみられている。

*タイ最南部のテロ被害に関しては、「タイ新聞協会」の調査機関、同国保健省、海外のテロ問題専門家などもそれぞれ独自に死傷者数の統計を取っており、それぞれの数値には若干の違いがあるが、現時点で死者の総数が3,500人を優に超えている点では一致している。

(アジア・リンケージ 勝田 悟)